

令和6年度 J A高岡

# 営農記録ノート

～農作業のあしあと～



地区名 \_\_\_\_\_

生産組合名 \_\_\_\_\_

氏名 \_\_\_\_\_

(あしあとをのこす人)

巻末の栽培管理記録簿は、**出荷前に必ず**  
**JAへ提出**しましょう。



# 目次

1. 重点事項・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 1
2. 水稻栽培ごよみ(JA米生産基準)
  - ・「コシヒカリ」の栽培ごよみ・・・・・・・・ P 2～3
  - ・「てんたかく」の栽培ごよみ・・・・・・・・ P 4～5
  - ・「てんこもり」の栽培ごよみ・・・・・・・・ P 6～7
  - ・「新大正糯」の栽培ごよみ・・・・・・・・ P 8～9
  - ・「直播コシヒカリ(鉄コティング)」の栽培ごよみ・・ P 10～11
3. JA高岡 施肥設計例・・・・・・・・・・ P 12～13
4. 主要農薬価格表・・・・・・・・・・ P 14
5. 農作業のあしあと
  - ・1月、2月 カレンダー・・・・・・・・ P 15
  - ・3月 土づくり編・・・・・・・・ P 16～17
  - ・4月 育苗編・・・・・・・・ P 18～21
  - ・5月 田植え・雑草防除編・・・・・・・・ P 22～27
  - ・6月 中干し編・・・・・・・・ P 28～29
  - ・7月 穂肥編・病害虫防除編(てんたかく)・・ P 30～33
  - ・8月 病害虫防除編(コシヒカリ)・水管理編・・ P 34～37
  - ・9月 秋作業編・・・・・・・・ P 38～41
  - ・10月 土づくり編・・・・・・・・ P 42～45
  - ・11月、12月 ハウスの雪害対策編・・ P 46～47
  - ・令和6年1月、2月 カレンダー・・・・・・・・ P 48
6. マメ知識①～③・・・・・・・・・・ P 49～50
7. 経営に合わせた継続的な生産調整の実施・・・・・・・・ P 51
  - ・大豆の栽培ごよみ・・・・・・・・ P 52～53
  - ・大麦の栽培ごよみ・・・・・・・・ P 54～55
8. マメ知識④～⑤・・・・・・・・・・ P 56
9. 栽培管理記録簿
  - ・栽培管理記録簿(記入例)・・・・・・・・ P 57～58
  - ・栽培管理記録簿(提出用)・・・・・・・・ 記入後 JA へ提出

# 重点事項

- 高品質な高岡産米を目指し、うるち米1等比率90%以上
  - ・「営農記録ノート」を活用した基本技術の徹底
  
- 「安心・安全」な米づくり
  - ・ 富山県適正農業規範に基づくGAP及び生産履歴記帳の実施
  
- 元気な土づくり
  - ・ 堆肥・珪酸質資材の積極的な施用や地力増進作物の作付け
  
- 高温登熟のリスク低減
  - ・ 高温条件でも品質が安定している「てんたかく」「てんこもり」の作付け
  
- 適正な生育量への誘導
  - ・ 田植え時期に合わせた健苗育成のための育苗計画（播種から19日以内）
  - ・ 適正な田植え作業（植付深さ3cm程度、植付本数3~4本、70株/坪）
  - ・ 田植え後の浅水管理による初期茎数の確保
  - ・ 田植え後4週間での中干しの実施
  - ・ 中干し後の間断かん水の実施
  
- 病虫害防除の徹底
  - ・ 農薬使用基準の厳守と周辺作物や住宅地への飛散防止
  - ・ 病虫害の発生に合わせた適期防除
  - ・ 畦畔や麦跡・雑草地などの管理の徹底
  
- 稲体の活力維持
  - ・ 出穂前の葉色に応じた追加穂肥の施用
  - ・ 出穂後20日間の湛水管理
  - ・ 収穫5~7日前までの間断かん水
  
- 適期の刈取りと乾燥・調製の実施
  - ・ 気象状況に応じた適期の刈取りや、適切な乾燥で胴割米の発生防止
  - ・ 清掃・選別の徹底による異品種や異物混入の防止

# 「コシヒカリ」の栽培ごよみ

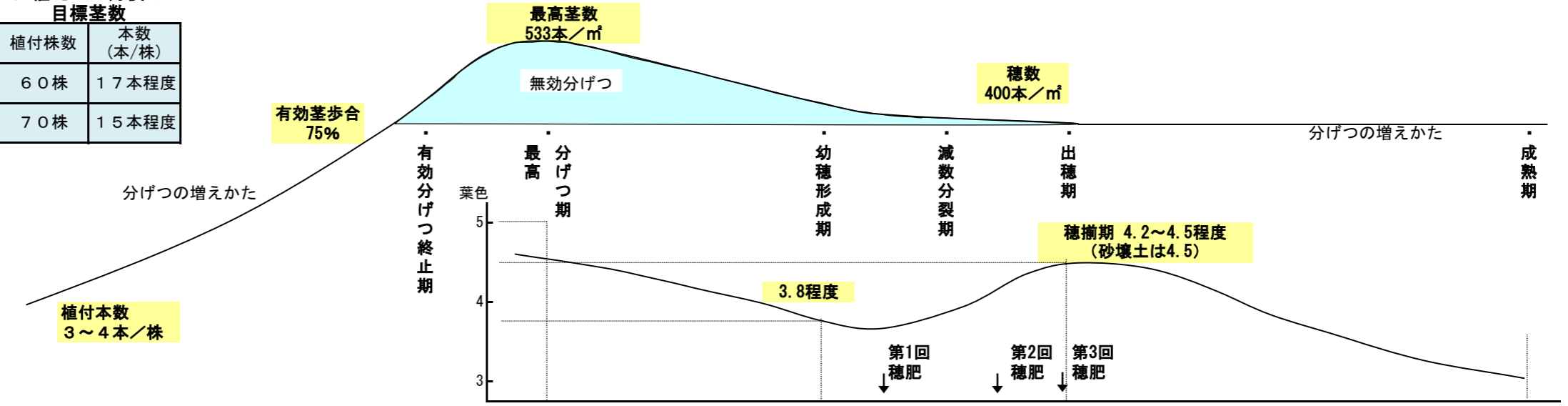
## 収量構成の目安

| 収量構成         | 目安   |
|--------------|------|
| ㎡当たり最高茎数 (本) | 533  |
| 有効茎歩合 (%)    | 75   |
| ㎡当たり穂数 (本)   | 400  |
| 平均一穂粒数 (粒)   | 70   |
| ㎡当たり着粒数 (百粒) | 280  |
| 登熟歩合 (%)     | 87   |
| 玄米千粒重 (g)    | 22.5 |

## 田植え1か月後の目標茎数

| 植付株数 | 本数 (本/株) |
|------|----------|
| 60株  | 17本程度    |
| 70株  | 15本程度    |

植付本数 3~4本/株



| 月日        | 4月   | 5月  | 6月   | 7月  | 8月  | 9月                               |                  |         |
|-----------|--|---|--|---|---|----------------------------------|------------------|---------|
| 草刈時期      |  | ★   | ★  | ★   | ★ 出穂  | ★ ←本田防除以降、収穫までは草刈りをしない→          |                  |         |
| 生育区分      | 育苗期  | 田植期<br>活着期  | 有効分けつ期   | 無効分けつ期  | 幼穂形成期<br>出穂23日前   | 穂ばらみ期<br>出穂10日前                  | 登熟期              | 収穫期     |
| 水管理       |  | やや深水  | 浅水管理<br>軽めの田干し   | 中干しの徹底<br>除草剤散布時は深水を保つ  | 間断かん水   | 幼穂形成期以降は飽水管理<br>(足跡の水が切れないように管理) | 出穂から20日間は湛水状態を保つ | 落水を急がない |
| 栽培管理のポイント | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 土づくり資材の散布</li> <li>・ ゆつくりと耕起し、作土 15 cm 以上を確保する</li> <li>・ 田面の均平をよくする</li> <li>・ 播種量は乾籾で一箱当たり 120 g 以下としてよい苗を作る</li> <li>・ 天候に合わせた温度管理を確実に行う</li> <li>・ <b>基肥量は地区基準量を守る</b></li> <li>・ <b>病害虫予防のため育苗ハウス外で散布する</b></li> <li>・ <b>育苗薬剤は育苗ハウスの外で散布する</b></li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 田植機の株数設定は 70 株/坪 に設定して作業を行う</li> <li>・ 5月15日頃を中心に田植を行い荒天時の田植えは避ける</li> <li>・ 一株の植付け本数は 3 ~ 4 本とし、3 cm 程度の深さに植える</li> <li>・ 田植後3日間はやや深水として活着を早める</li> <li>・ 全層施肥の場合は早期追肥を田植え後7日以内に施用する</li> <li>・ 活着後は浅水管理とし、日中は止め水で田水温を高める</li> <li>・ 除草剤散布は適期に行い、環境汚染に配慮し1週間程度は止水とする</li> <li>・ 良質の茎を早く確保する</li> <li>・ かん水は朝又は夕方短時間に行う</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中干し開始は遅れないよう確実に行う(田植え後4週間までに実施)</li> <li>・ 中干し後は間断かん水をくり返し土壌を固くする</li> <li>・ <b>適正な中干しにより、根の活力を高めるとともに過剰分けつを抑制する</b></li> <li>・ 早めに手溝を掘り、水のかん排水の効率化を図る</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>畦畔草刈りでカメムシ密度を下げる</b></li> <li>・ 幼穂形成期の葉色を 3.8 程度に誘導する</li> <li>・ <b>分施肥系の場合</b></li> <li>・ <b>幼穂形成期以降は飽水管理(足跡に水が切れないように管理する)</b></li> <li>・ <b>分施肥系の場合</b></li> <li>・ 1回目穂肥は幼穂長 15 ~ 20 mm を確認してから慎重に行う</li> <li>・ 2回目穂肥は1回目の7日後に確実に行う</li> <li>・ 3回目穂肥は葉色に応じて出穂直前に行う</li> <li>・ <b>本田防除の徹底(適期防除の実施)</b></li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 圃場全体に水が行きわたっているか確認する</li> <li>・ 湛水期間はこまめに水を入れ、田水温の上昇を防ぐ</li> <li>・ 穂揃期の葉色を 4.2 ~ 4.5 に誘導する</li> <li>・ 圃場全体に水が行きわたっているか確認する</li> <li>・ 湛水期間はこまめに水を入れ、田水温の上昇を防ぐ</li> <li>・ 刈取り予定日の5 ~ 7日前まで間断かん水する</li> <li>・ フェーン時はかん水して、葉身の萎れを防ぐ</li> <li>・ 収穫前に必ずクサネムやヒエなどの雑草を抜き取る</li> <li>・ 刈取り予定日の5 ~ 7日前まで間断かん水する</li> <li>・ 過乾燥による胴割米を発生させない</li> <li>・ 仕上水分 14.5 ~ 15.0 %</li> <li>・ 適期内に刈取り、刈り遅れのないように注意する</li> <li>・ 籾の黄化率 85 ~ 90 % 程度が刈取り適期</li> <li>・ 収穫前に必ずクサネムやヒエなどの雑草を抜き取る</li> <li>・ フェーン時はかん水して、葉身の萎れを防ぐ</li> <li>・ 刈取り予定日の5 ~ 7日前まで間断かん水する</li> <li>・ 稲わらの腐熟を促進するため、秋起こしを行い、排水溝を設置する</li> <li>・ 土づくり肥料はそれぞれの基準量を確実に施用する</li> </ul> |                                  |                  |         |

# 「てんたかく」の栽培ごよみ

## 収量構成の目安

| 収量構成         | 目安   |
|--------------|------|
| ㎡当たり最高茎数 (本) | 650  |
| 有効茎歩合 (%)    | 78   |
| ㎡当たり穂数 (本)   | 500  |
| 平均一穂粒数 (粒)   | 60   |
| ㎡当たり着粒数 (百粒) | 300  |
| 登熟歩合 (%)     | 85   |
| 玄米千粒重 (g)    | 23.5 |

## 田植え1か月後の目標茎数

| 植付株数 | 本数 (本/株) |
|------|----------|
| 70株  | 18本程度    |

植付本数  
3~4本/株

最高茎数  
650本/㎡

穂数  
500本/㎡

有効茎歩合  
78%

無効分けつ

分けつの増えかた

葉色

5

4

3

最高

分けつ期

幼穂形成期

減数分裂期

出穂期

成熟期

4.0を下回らない

第1回穂肥

第2回穂肥

穂揃期 4.2~4.5程度

## 品種の特性

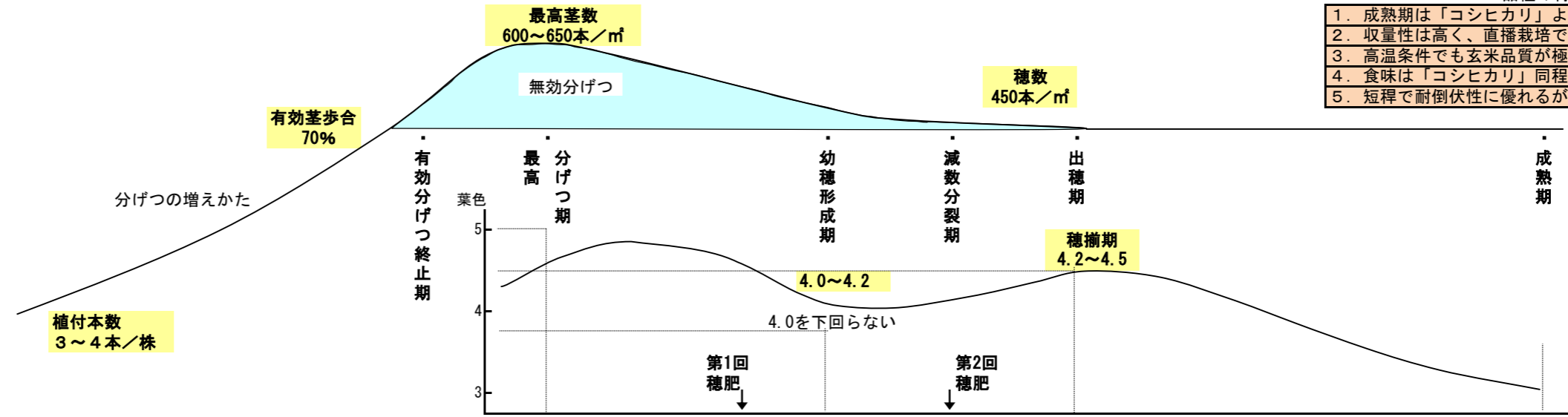
1. 成熟期は「コシヒカリ」より10~14日程度早い
2. 収量性は「コシヒカリ」並み~やや高い
3. 高温条件でも玄米品質が極めて高く、安定している
4. 食味は、タンパク含有量が低く粘りがある
5. いもち病には強いが、紋枯病・白葉枯病にやや弱い

| 月日        | 4月  | 5月   | 6月  | 7月                     | 8月    | 9月                               |                  |         |     |
|-----------|---|--|---|------------------------|-------|----------------------------------|------------------|---------|-----|
| 草刈時期      | ★   | ★  | ★   | ★                      | ★     | ★                                |                  |         |     |
| 生育区分      | 育苗期   | 活着期  | 有効分けつ期  | 無効分けつ期                 | 幼穂形成期 | 穂ばらみ期                            | 出穂期              | 登熟期     | 収穫期 |
| 水管理       |   | やや深水<br>田植期  | 浅水管理<br>軽めの田干し  | 中干しの徹底<br>除草剤散布時は深水を保つ | 間断かん水 | 幼穂形成期以降は飽水管理<br>(足跡の水が切れないように管理) | 出穂から20日間は湛水状態を保つ | 落水を急がない |     |
| 栽培管理のポイント | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 土づくり資材の散布</li> <li>・ ゆっくりと耕起し、作土 15 cm 以上を確保する</li> <li>・ 田面の均平をよくする</li> <li>・ 播種量は乾籾で一箱当たり 120 g 以下としてよい苗を作る</li> <li>・ 天候に合わせた温度管理を確実にを行う</li> <li>・ 基肥量は地区基準量を守る</li> <li>・ 病害虫予防のため苗箱施薬を行う</li> <li>・ 苗箱施薬剤は育苗ハウスの外で散布する</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 一株の植付け本数は 3 ~ 4 本とし、3 cm 程度の深さに植える</li> <li>・ 田植機の株数設定は 70 株/坪 に設定して作業を行う</li> <li>・ 田植後は浅水管理とし、日中は止め水で田水温を高める</li> <li>・ 田植後3日間はやや深水として活着を早める</li> <li>・ 全層施肥の場合は早期追肥を田植え後7日以内に施用する</li> <li>・ 活着後は浅水管理とし、日中は止め水で田水温を高める</li> <li>・ 除草剤散布は適期に行い、環境汚染に配慮し1週間程度は止水とする</li> <li>・ 良質の茎を早く確保する</li> <li>・ 中干し開始は遅れないよう確実にを行う(田植え後4週間を目安)</li> <li>・ 早めに手溝を掘り、水のかん排水の効率化を図る</li> <li>・ 適正な中干しにより、根の活力を高めるとともに過剰分けつを抑制する</li> <li>・ 中干し後は間断かん水をくり返し土壌を固くする</li> <li>・ 幼穂形成期の葉色は 4.0 を下回らないようにする</li> <li>・ 幼穂形成期以降は飽水管理(足跡に水が切れないように管理する)</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1回目穂肥は幼穂長 1 mm を確認してから行う</li> <li>・ 分施肥体系の場合</li> <li>・ 畦畔草刈りでカメムシ密度を下げる</li> <li>・ 2回目穂肥は1回目の10日後に確実にを行う</li> <li>・ 分施肥体系の場合</li> <li>・ 本田防除の徹底(適期防除の実施)</li> <li>・ 圃場全体に水が行きわたっているか確認する</li> <li>・ 湛水期間はこまめに水を入れ、田水温の上昇を防ぐ</li> <li>・ 過乾燥による胴割米を発生させない</li> <li>・ 仕上水分 14.5 ~ 15.0 %</li> <li>・ 適期内に刈取り、刈り遅れのないように注意する</li> <li>・ 籾の黄化率 85 ~ 90 % 程度が刈取り適期</li> <li>・ 収穫前に必ずクサネムやヒエなどの雑草を抜き取る</li> <li>・ フェーン時はかん水して、葉身の萎れを防ぐ</li> <li>・ 刈取り予定日の5 ~ 7日前まで間断かん水する</li> <li>・ 稲わらの腐熟を促進するため、秋起こしを行い、排水溝を設置する</li> <li>・ 土づくり肥料はそれぞれの基準量を確実に施用する</li> </ul> |                        |       |                                  |                  |         |     |

# 「てんこもり」の栽培ごよみ

## 収量構成の目安

| 収量構成         | 目安      |
|--------------|---------|
| ㎡当たり最高茎数 (本) | 600~650 |
| 有効茎歩合 (%)    | 70      |
| ㎡当たり穂数 (本)   | 450     |
| 平均一穂粒数 (粒)   | 70      |
| ㎡当たり着粒数 (百粒) | 300~320 |
| 登熟歩合 (%)     | 85      |
| 玄米千粒重 (g)    | 22.5    |



品種の特性

1. 成熟期は「コシヒカリ」より7日程度遅い
2. 収量性は高く、直播栽培でも収量が安定している
3. 高温条件でも玄米品質が極めて高く、安定している
4. 食味は「コシヒカリ」同程度で美味しい
5. 短稈で耐倒伏性に優れるが、紋枯れ病にやや弱い

| 月日        | 4月  | 5月         | 6月   | 7月     | 8月  | 9月                               |   |         |  |  |  |
|-----------|---|------------|--|--------|---|----------------------------------|---|---------|--|--|--|
| 草刈時期      | ★   |            | ★  |        | ★   |                                  |   |         |  |  |  |
| 生育区分      | 育苗期   | 田植期<br>活着期 | 有効分げつ期   | 無効分げつ期 | 幼穂形成期<br>穂ばらみ期  | 出穂期<br>登熟期                       | 収穫期   |         |  |  |  |
| 水管理       |   | やや深水       | 浅水管理<br>軽めの田干し   | 中干しの徹底 | 間断かん水   | 幼穂形成期以降は飽水管理<br>(足跡の水が切れないように管理) | 出穂から20日間は湛水状態を保つ  | 落水を急がない |  |  |  |
| 栽培管理のポイント | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 播種量は乾籾で一箱当たり 120 g 以下としてよい苗を作る</li> <li>・ 田面の均平をよくする</li> <li>・ ゆっくりと耕起し、作土 15 cm 以上を確保する</li> <li>・ <b>土づくり資材の散布</b></li> </ul> |            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 田植機の株数設定は 60 3 5 70 4 本とし、3 cm 程度の深さに植える</li> <li>・ 田植後 3 日間はやや深水として活着を早める</li> <li>・ 活着後は浅水管理とし、日中は止め水で田水温を高める</li> <li>・ 全層施肥の場合は早期追肥を田植後 7 日以内に施用する</li> <li>・ <b>良質の茎を早く確保する</b></li> </ul> |        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 除草剤散布は適期に行い、環境汚染に配慮し 1 週間程度は止水とする</li> <li>・ 中干し後は間断かん水をくり返し土壌を固くする</li> <li>・ 中干し開始は遅れないよう確実に進行 (田植後 4 週間を目安)</li> <li>・ <b>適正な中干しにより、根の活力を高めるとともに過剰分げつを抑制する</b></li> <li>・ 早めに手溝を掘り、水のかん排水の効率化を図る</li> </ul> |                                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 幼穂形成期以降は飽水管理 (足跡に水が切れないように管理する)</li> <li>・ 幼穂形成期の葉色は 4.0 を下回らないようにする</li> <li>・ <b>畦畔草刈りでカメムシ密度を下げる</b></li> </ul> |         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1 回目穂肥は幼穂長 1 mm を確認してから行う</li> <li>・ 2 回目穂肥は 1 回目の 10 日後に確実に進行</li> <li>・ 分施肥系の場合</li> <li>・ 本田防除の徹底 (適期防除の実施)</li> <li>・ 穂揃期の葉色を 4.2 5 4.5 に誘導する</li> <li>・ 圃場全体に水が行きわたっているか確認する</li> <li>・ 湛水期間はこまめに水を入れ、田水温の上昇を防ぐ</li> <li>・ 過乾燥による胴割米を発生させない</li> <li>・ 仕上水分 14.5 5 15.0 %</li> <li>・ 適期内に刈取り、刈り遅れのないように注意する</li> <li>・ 籾の黄化率 85 5 90 % 程度が刈取り適期</li> <li>・ 収穫前に必ずクサネムやヒエなどの雑草を抜き取る</li> <li>・ フェーン時はかん水して、葉身の萎れを防ぐ</li> <li>・ 刈取り予定日の 5 7 日前まで間断かん水する</li> </ul> |  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 稲わらの腐熟を促進するため、秋起こしを行い、排水溝を設置する</li> <li>・ 土づくり肥料はそれぞれの基準量を確実に施用する</li> <li>・ 土づくりに努める。</li> </ul> |

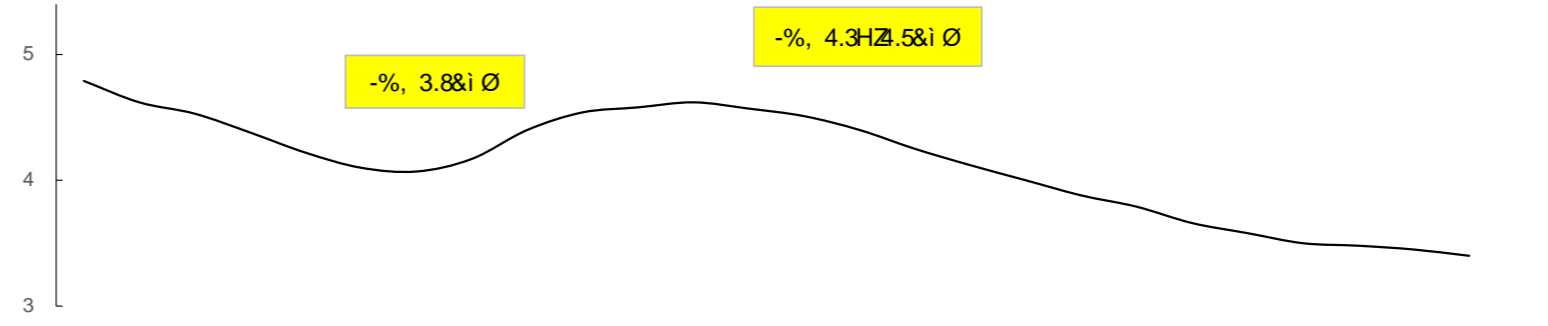
~ ü { & Œ • • Ñ È

|  |      |
|--|------|
|  |      |
|  | 530  |
|  | 75   |
|  | 400  |
|  | 70   |
|  | 280  |
|  | 80   |
|  | 21.5 |

|  |  |
|--|--|
|  |  |
|  |  |

最高茎数

75%



10月



5  
v  
10

70

15 120

3 S[  
4 •  
K R£  
>1  
l &i  
Ø b  
Y I  
Ü  
<  
•

7 ¥ è Æ  
-  
#Y M  
•

4  
4 6è  
r [  
-  
c  
SP

1 G  
,  
%  
,  
\*ç  
c  
Ä  
,  
6x  
10  
20

2 G  
,  
%  
,  
\*ç  
c  
1  
G  
,  
%  
b  
7  
¥  
c  
&  
  
-  
/œ  
:

4.2  
4.5

3.8